

令和8年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録			
会議	部会名	第2回 相談支援専門員連絡会	日 時 令和8年8月24日(月) 13:30 ~ 15:30
	会 場	伊那市防災コミュニティセンター	参加者数 41 人
主 題 マ	1 開会・挨拶 2 講義「長野県の高次脳機能障害に関する支援について」 3 グループワーク 4 事業所紹介・その他		
	1. 開会・挨拶 事前に実施した「高次脳機能障害アンケート結果」を共有し、地域における支援経験や課題意識を共有した。 2. 講義『長野県の高次脳機能障害に関する支援について ー基本知識の理解から対応、支援体制の構築・充実ー』 講師:長野県高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援コーディネーター 高次脳機能障害は、脳卒中や脳外傷などの器質的病変に起因する中途障害である。行政の診断では、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害の4つの主症状を指す。外見からは分かりにくく特性の理解が進んでいないため「目に見えない障害」と呼ばれ、本人の病識低下により自覚が難しく周囲が困るという特徴を持つ。支援者においては、目に見える問題行動の背景に「目に見えない症状」がどのように影響しているかをアセスメントすることが重要である。例えば、感情コントロールの低下や怒りといった反応は、急な予定変更による認知の過負荷や、深層心理にある不安や焦りの現れである場合が多い。そのため、「正論はNG」「否定をしない」姿勢を保ち、まずは「一緒に困る」ことから信頼関係を築く必要がある。本人が一方向的に環境に適応することを求めるのではなく、支援者や環境と本人に適している視点を持ち、本人の「やりたい」という意欲を尊重しながら、対話を通じて役割や自己の価値を再確立していくサポートが不可欠である。 3. グループワーク 6つのグループに分かれ、事例や各事業所での困りごとについて討議を行った。 話題提供として、20代で交通事故に遭い、脳挫傷による高次脳機能障害がある40代男性の方について、「本人のプライドを傷つけずに、認識のずれをどのように伝えればよいか」「働きかけが本人にとってマイナスの引き金にならないか」と話があり、各グループでも同様の困りごとや支援における難しさについて意見が出された。講師より、本人のプライドを守るためには「正論を押しつけない」「否定しない」「本人がいらないところで物事を決定しない」ことが重要であると助言があった。また、本人との「認識のずれ」をすぐに修正しようとするのではなく、まずは支援者も「一緒に困る」という姿勢で関わる大切であると説明された。本人の「やりたい」という気持ちを尊重しながら対話を重ね、本人自身が役割や自己の価値を再確認できるよう支援していくことの重要性が強調された。 圏域の高次脳機能障害コーディネーター健和会病院より、具体的な支援方法や脳疲労に着目した支援など、新たな支援方法を学ぶ機会となった。 4. 事業所紹介・その他 - 健和会病院より南信地域高次脳機能研修会(11月7日開催)の案内 - ユースタイルケアギフト飯田:24時間365日対応などの事業紹介(重度訪問介護、居宅介護、移動支援)		
ま と め	高次脳機能障害について、主な症状や周囲の適切な関わり方、支援方法について学ぶ機会となった。		
次回	第3回:10月28日(水)13:30~ 場所:伊那市防災コミュニティセンター 内 容:意思決定支援についてとグループスーパービジョン		